

米国内移民への ICE 攻撃とガザ・ジェノサイドの時代にファノンを読む

コビー・バード著、脇浜義明訳

Struggle-La Lucha, 2025年7月2日

植民地主義は一民族を支配し、彼らの意識からすべての様式と内容を剥奪して空にするだけでは満足しない。一種の倒錯した論理で、被抑圧民族の過去にも手を付けて、過去を歪め、変形し、破壊するのである。

ー フランツ・ファノン、『地に呪われた者』

ファノンは、被抑圧民族の過去への攻撃は彼らの歴史、文化、生活様式への攻撃であると書いた。アルジェリアは、1830年からフランス人に占領されていた。フランス人はアルジェリア社会の文化的基準の破壊と、反対するものを絶対的暴力で弾圧するという雰囲気をもたらせて、アルジェリア人民支配を確実にしようとした。アルジェリアのあらゆるインフラに有名フランス人入植者、植民地開拓者、占領軍人の名前を付けた。

アルジェリアからイスラムの色彩を消却する植民地的十字軍活動を展開した。欺瞞と恫喝と暴力を使って、アルジェリアのイスラム文化をフランス、ヨーロッパ、キリスト教文化に置き換えていった。モスクを閉鎖し、あるいはカトリック教会に改装した。コーランを教える宗教学校を閉鎖し、あるいは仏語で授業するカトリック学校に変えた。

報道に関しては、フランス・メディアか植民地主義的新聞とラジオが主流情報源であった。そして、アルジェリア人の村や町はフランス人入植者が住む大都市から、軍の検問所と深い人種差別の文化によって分離されていた。

脱植民地化闘争

ファノンはアルジェリア人民の解放闘争を詳しく書いた。アルジェリア人民は、物理的にはフランス軍と入植者の排除を求める闘争、文化的には西洋的価値観崇拜思想や、フランスが作り上げたアルジェリア人の中の亀裂を撲滅する文化闘争を行って、脱植民地化闘争を進めた。

アルジェリア独立戦争（1954～1962）では女性が重要な役割を担った。アルジェリア民族解放戦線や広範な革命運動が成功したのは女性の貢献のおかげである。女性たちは、彼女らに対するフランス人の傲慢さとショーヴィニズムを逆利用した。西洋的服装の女性は軍検問所の通過が容易だったので、それを利用して革命勢力への資金や道具を運んだ。イスラム女性への差別と傲慢さを利用して、イスラム・ショールで顔を隠し、衣装の中に武器や器具や資金を忍ばせて、フランス軍の目を誤魔化して、必要なものを運搬した。

女性と男性と一緒に戦った。都市では、女性は見張り役、ガイド役、男性のパートナーとして、フランスの占領を打ち破るために必要なことは何でもしていた。山や田園地帯では、女性は完全武装し、武器や重機を使ってフランス軍と交戦していた。女性と男性は解放を達成するために肩を並べて戦っていただけでなく、あらゆる戦線での闘争に女性が加わったことで、革命そのものが救われたのである。

親フランス・メディアを拒否

情報分野でも、フランス支配への闘いが展開した。アルジェリア人民はラジオ・アルジェリアなどの親フランス放送局をボイコットした。これらのラジオ局はフランスの植民地支配を肯定し、占領と抑圧のジェノサイド的戦略に協力した。

大衆に情報を提供したのは「戦うアルジェリアの声」であった。この放送局は解放闘争の情報を直接大衆に伝える頼みの綱であった。アルジェリアを構成する多数の部族や種族全部に情報が伝わるように、多数の言語で放送された。

また、植民地政府官報に対抗して、複数の新聞も発行され、革命闘士の言葉や、フランス軍の虐殺を生き残った人の証言を伝えた。大衆はこれらのラジオや新聞の新情報手段に飛びつき、情報だけでなく、思想や、抵抗の仕方を学び取り、全般的に新しい国家建設の道が開拓されていった。こういう進歩的メディアの出現によって、植民地主義者の戦争マシーンを解体する組織的活動がやり易くなった。

ロサンゼルスとガザでの誘拐と拷問に対する戦い

米国の先住民女性や移民女性は、アルジェリアの革命的女性と同じ精神で、友人や家族や同僚の拉致や拷問に反対して闘っている。特にロサンゼルスでは女性が戦士となって、コミュニティ自衛連合のような組織を指導している。彼女らは、抗議文やらピラなどの文書作成、ICE（移民税関捜査局）の動向の監視、新人の訓練、ICEの攻撃を地域に通知するなど、抑圧機構と対抗ためにできることを何でも担った。警官の暴力とテロに対して大衆的抗議の呼びかけをやり、地域を組織化して立ち上がらせるのは、たいてい黒人女性である。情報部門では、企業や公的メディアに対抗して小規模の独立メディア、地域社会に密着した自主的メディアが活動する。

占領地パレスチナでは、シオニスト国はパレスチナ人レジスタンスの外部世界に情報を伝達する力を破壊できない。レジスタンス・ニュース・ネットワーク（RNN）などのSNSは、ガザ回廊全域でイスラエルの民間人虐殺という事実を明らかにすると共に、レジスタンスのシオニスト軍に対する戦いを世界に伝える。

パレスチナとロサンゼルス（そして世界）の人民は平和的デモを攻撃する警察暴力を記録し、一般市民への残虐行為を記録して世界へ流し、ジェノサイドや占領を正当化する強者の談話を壊す。

ファノンの教えは、労働運動から民族解放闘争まで、あらゆる規模の闘いや抵抗に適用できる。彼の反帝国主義闘争と反植民地主義闘争に関する教えは、人間として生き残る戦略、資本主義に抵抗する戦略を提供する。

利潤のためのスペースを作るためにコミュニティを破壊するのは資本主義であり、コミュニティとコミュニティを対立させるのは資本主義であり、金銭のために人権を窒息させるのは資本主義である。女性や被差別者の抑圧など分裂支配を促進するのは資本主義であり、市場創出のためにジェノサイドを正当化するのは資本主義で、そして、最後に、自己保身のためにファシズムを用意するのも資本主義である。